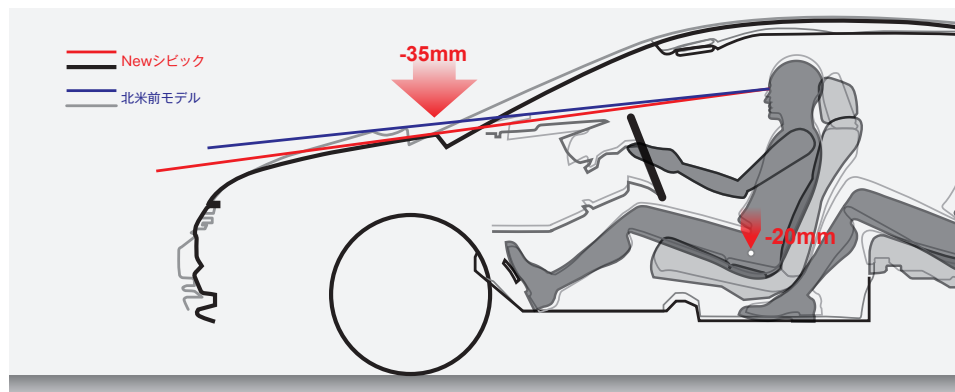


操ることへの期待が高まる、スポーティーかつ安心感の高いドライビング環境

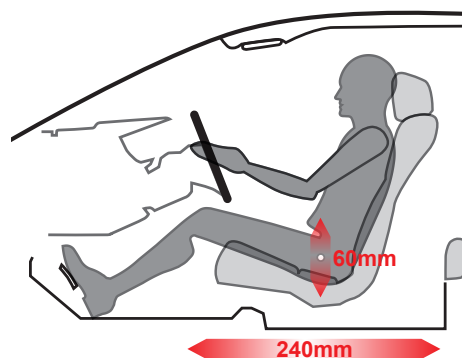
■ 運転操作がしやすいスポーティーなドライビングポジション

フロア構造の最適化により運転席のヒップポイントを20mm低く設定。ヒールポイントとの高低差が少ないドライビングポジションとすることで、シートに腰がしっかりとホールドされ、ステアリングやペダル操作がしやすい乗車姿勢を実現。一方でボンネット後端位置を35mm下げることで見下げ角は拡大しています。比較数値は北米前モデルセダン比



ゆとりあるシートスライド量とシート高さ量

広い室内空間を確保したことで、運転席のポジション調整幅を拡大。シートスライド量は240mm、シート高さは60mmの範囲で調整でき、さまざまな体格のドライバーに対して、最適なドライビングポジションに設定できます。



■ 水平方向に連続感があり、爽快で安心感の高い視界

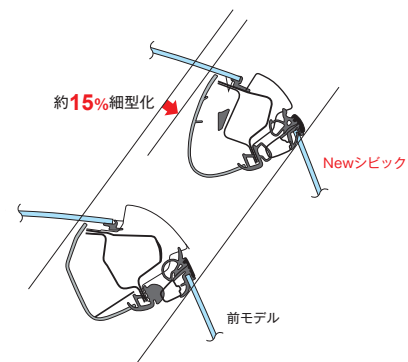
街中での取り回しのしやすさや高速走行での安心感を得るために、運転視界を突き詰めました。フロントピラー位置をより後方にした骨格構造とすることで水平視野角を拡大。そのうえで、インパネ上面とドアライニング上面をボンネットの高さに合わせてスムーズにつなげ、横方向に広がりのある爽快な視界を実現しています。



■ 細型設計のフロントピラー

結合剛性の高いボディー骨格構造により、フロントピラー幅をドライバーの視線方向で約15%細型化。コーナリング時のスムーズな視線移動を可能にしています。比較数値は北米前モデルセダン比

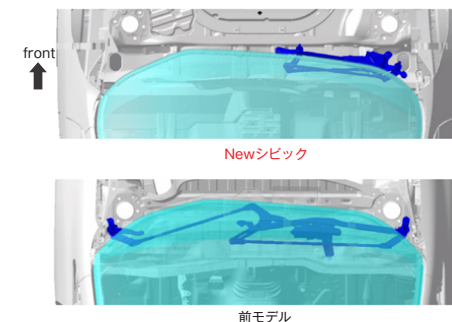
■ フロントピラー断面比較



(北米モデルでの比較)

■ 低いドライビングポジションでも運転しやすい低ボンネット化

運転席のヒップポイントを低くしながら見下げ角を確保するためにボンネットの高さを抑えました。エンジン搭載位置を調整したほか、ワイパーシステムを変更し小型化。また、ボンネットの両サイドに大きく盛り上がる稜線を設け、狭い場所での取り回しでも車両感覚がつかみやすいデザインとしています。



(北米モデルでの比較)